



Hāf a A d a i

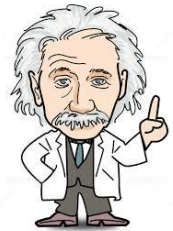
令和5年7月28日
グアム日本人学校
学校だより
8月号
校長 井手瑞樹

学びの姿勢

「学習へ取り組む姿勢」について、時々子どもたちにお話をいたします。学ぶためには、心が動くことが不可欠です。

アインシュタインという20世紀最大の科学者がいました。彼は、当時こんなことを話していたそうです。「あることを学んでいくと、学んでいくほどに、自分が何も知らないことに気がつく。気がつけば気がつくほど一層学びたくなるんだ」。正にこれこそが学ぶ姿勢だと思います。

いかに子どもに学びの動機を与えられるか、または、いかに子ども自らがその動機を得ることができるか。ここに、教師、親を含めた大人の、子どもに対する教育の責任と醍醐味を感じます。



ドラえもののポケット

私が日本で勤務していたあるとき、次のような話を生徒たちにしたことがあります。「平面上の正方形は、空間の中では立方体にあたります。では、ドラえもののポケットの4次元空間ではどんな図形になるのでしょうか。」生徒たちの目が一瞬、キラッ！と輝いたように感じました。「実はその図形をここに持ってきています。あなたたちの人生で、一度きりしか見られないかもしれないのでよく見ておくように」といって、おもむろに取り出した物体を生徒たちの前に差し出しました。すると彼らは食い入るような視線を向けてきました。何かを感じたのでしょうか。しばらく静寂の時間が流れました。最後に「しっかり勉強すれば、なぜこんな物体になるのかわかります。物事を深く考え続けることが大事です。もし、興味があって、私の話をもう少し聴いてみたいと思う人は、あとで校長室に来て下さい」といいましたところ、5名の生徒がたずねてきました。すばらしい！と感動し、嬉しくなり、我を忘れて説明したことを覚えています。



夏休み、時間をどう使う？

いよいよ夏休みに入ります。1学期もいつの間にか過ぎ去ったという感じです。「光陰矢のごとし」とはよく言ったものだと思います。人間は年をとるにつれ、次第に時間が経つのを早く感じるようになるようです。ある説によると、1歳の赤ちゃんは、生きてきた1年を1/1（1分の1）と感じ、5歳の幼児は1年を1/5（5分の1）と感じる。したがって、40歳の方は、1年を1/40（40分の1）と感じるということです。なるほど。では、60歳を過ぎた私には、1年はあって、ないようなものということになります。

夏休みも同じ理屈です。最初の1日は1/1ですが、最後の1日は1/23（本年度）と感じることになります。子どもたちには、有意義な夏休みを送ってほしいものです。生活リズムを守って時間を大切に、いろいろな経験をしたり、楽しく遊んだり、興味をもって学んだり。ただし、やるべき事は必死に頑張ったりやり抜くことも忘れてもらっては困ります。子どもたちにはしっかり意識させたいと思います。夏休みの間、どうぞ、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

